

満洲事變、五一五事件を契機として日本の社會情勢は一大變化を來し吾々の兄弟であつた労働者が己れの陣營を放棄して資本家の傀儡たる反動「ファンショ」へ轉落するに至つた、斯る旋風の眞只中に在りて日本労働組合會議加盟團体の同志のみは確實に自己の立場を認識し陣營の整備擴大に努めて來た、諸君は重壓おもしやうの駆飛して目的の彼岸に邁進せよ。

○ 總同盟中四聯合會長

金 幸 平

日本の労働運動は何れも岐路を辿つて來た、吾々の因島造船所では大正十三年頃三千の労働者による組合結成の氣運が醸成され一ヶ年の後には百數十名の同志が出來たのであるが、此間會社側の壓迫は實に言語に絶した斯る重壓は却つて労働者の反撲心を誘發し翌年のメーデには千名の同志を動員して會社側を啞然たらしめた其の間組合幹部は次々に敵首され大正

法財團協調會福岡出張所